

口留番所跡

旅人の検問所

ここは、戦国時代（1467年～1600年）から江戸時代（1603年～1868年）初頭までの番所跡です。関所や番所はそれぞれ様々な役割を担っており、その中には禁制木材を取り締まったものや、この番所のように通行手形を検めて人々の通行を監視していたものなどがありました。

17世紀半ばには、ここから約3.5km南にある下り谷に木材の出荷を取り締まった白木改番所が設置されましたが、この番所が1749年に洪水で流された際には、さらに数キロ南の一石柵に再建され、1869年まで稼働していました。